

①「原発事故と社会の構造」について

- ・なぜあれほどの事故が起きたのに、責任の所在が明確にならなかったのですか？
- ・「特権と人権の論理」と福島事故後の対応は、どこがつながるのですか？
- ・国や行政の説明と、地域の実感が違うのはなぜですか？
- ・“安全”と繰り返すのに、なぜ住民の不安は解消されないのでしょうか？

②「放射線・健康」について

- ・小児甲状腺がんが増えているという話を聞きますが、どうして大きく報道されないのですか？
- ・“ただちに影響はない”という言葉、どう受け止めるべきでしたか？
- ・若い世代は「もう大丈夫」と言われて育ちました。本当に検査は必要ですか？
- ・被ばくのことを話すと「不安をあおる」と言われるのはなぜ？

③「メディア・情報」について

- ・情報が多すぎて、何を信じればいいのかわからなくなります。どう判断すればいいですか？
- ・当時の報道と、今の専門家の説明が違うように感じます。何が本当ですか？
- ・SNS で真逆の情報が飛び交う中、正しい知識をどう伝えれば良いですか？

④「福島で生きること」について

- ・県外の人に福島の話をする、と、反応が難しく、誤解されるときがあります。どう伝えるべきでしょうか？
- ・「普通の生活に戻った」と言われますが、何が“普通”だったのが今は分かりません。
- ・子どもに“本当のこと”をどう説明すればよいですか？

⑤「若者世代（知らされなかった世代）」から想定される質問

- ・なぜ学校では原発事故のことをほとんど習わなかったのですか？
- ・親世代が抱えてきた気持ちや苦しさを、どう理解すればいいですか？
- ・自分たちが知らされてこなかったのは、誰に責任があるのでしょうか？

- ・福島で生きることと、原発事故を学ぶことに、どんな意味があるのでしょうか？

⑥「武谷三男の思想」への質問

- ・武谷三男が言う「安全性の考え方」は、今の福島にどう当てはまりますか？
- ・“許容量”という考え方は、住民にとって何を意味するのですか？
- ・武谷の思想は難しいと言われますが、どうかみ砕いて学べばいいですか？
- ・科学と人権をつなげて考えるとは、どういうことですか？

⑦「語り継ぐ・伝えるための方法」への質問

- ・若い世代に関心を持ってもらうには、どんな伝え方が良いですか？
- ・何から話したら良いのか分かりません。伝える順番やポイントは？
- ・体験していない世代に、どうやって“重さ”を伝えれば良いですか？
- ・動画・資料・ワークショップなど、効果的な伝え方はありますか？

⑧「日常の中の身近な問題」からの質問

- ・食べ物や生活の中で、今も気をつけるべきことはありますか？
- ・震災後の避難・分断・家庭内の葛藤をどう扱えばいいですか？
- ・周りの人が“何も問題ない”と言う時、どう対話すれば良いですか？